

校園長室から



学校教育目標

共に学び共に伸びる子ども

- ・いのちを大切にできる子ども
- ・だれとでも仲良く協力し合う子ども
- ・意欲をもち学習する子ども
- ・ねばり強くはたらく子ども

令和8年6月18日 第110号

修学旅行の思い出③

甲子園に出場した高校を紹介するのに「3年ぶり8回目の出場」なんて、紹介の仕方がありますが、今回の修学旅行をその言い方で表現すると「9年連続18回目」ということになります。18回のうち中学生と行ったのが11回ですので、全部で29泊。大雑把に言えば、人生のほぼひと月を修学旅行先で泊っていることになります。

最初に引率した修学旅行先は、長崎。ホテルで各部屋に宿泊なんてしゃれた時代ではなく、20人部屋で男子20人が雑魚寝。今思い返すしても壮絶な景色。

二日目に班別に分かれて長崎の町の探索。高台にある神社が当時のクラスの出発地点。時間差をつけて、それぞれが階段を降り、長崎の町に散らばっていきます。蟻のように小さくなった生徒をその神社から俯瞰したとき、『ああ、教師になったなあ』と実感したりしました。

夜中、ホテルの裏にあった墓場でトランシーバーを持って待機。そこからは、ホテルの部屋全部が一望でき、電気のついた部屋が瞬時でわかる。「203号室電気つきました」と先輩の先生にトランシーバーで報告。

朝方気づくと、墓石に頬ずりしながら寝ていた自分に気づき、ちょっとズレた墓石をもとの位置に戻したりして。

さて、今回の修学旅行。みんな元気に出発して元気に帰ってきたことが本当にうれしかったです。当たり前のことですが、これがすべて。たくさん思い出のシーンがあったと思いますが、伊勢神宮に参拝したときに、みんなそろって五十鈴川で手を洗ったことと、ふと振り返った時、綺麗に二列になって境内を歩いている姿が印象的でした。